

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌

2016年 新しい年を迎えて



三重県厚生連
鈴鹿厚生病院
院長 中瀬 真治

昨年を振り返って

昨年は、50周年という大きな節目の年に院長に就任し、職員はもちろんのこと、当院は地域のみなさんや関係機関など多くの方々に支えられているのだということ再認識いたしました。また11月には電子カルテが導入されました。導入にあたっては、これまでの業務を見直すのに多職種で集まり、ときには意見をぶつけ合って積極的に話し合ったのはとても良い機会でした。誰がどこでどんな役割を果たしているのが共有できる「業務の見える化」に一步近づけたのではないかと感じています。

共有すると言えば、チーム医療の実践では目的や目標の共有が要となります。ご存じのように、当院では病院祭

や運動会など、一見、医療には直接関係が薄いように思われることにも職員が全力で取り組んでいます。ここでも、何を目的に自分たちが一丸となって取り組んでいるのかを意識して、それらを共有することが大切だと思っています。そこで、その目的が実現する可能性を高めるマネジメントがわたしの役目です。簡単に言えば、全ての職員が病院理念を確認し、力を合わせて臨むことへの推進役といったところでしょうか。

今年の抱負

今年は病院機能評価の更新も控えており、当院の機能をあらためて見つめ直すチャンスと捉えています。一方、

良質な医療を継続的に提供していくには医療経済的な視点も欠かせません。地域のみなさんからの期待にしっかり応えられるよう、様々な視点からのバランス感覚も大切にしたいと思っています。英国の元首相、ハロルド・ウィルソンの「私は楽観主義者である。しかしレインコートを持って行く楽観主義者だ」という言葉があります。謙虚に多様なリスクを把握して、それらにも備えながら、自信と希望を持って地域の精神科医療に貢献したいと願っています。今年も全職員で目標を共有し、当院の理念「ささえあい、ともに生きる」を実践して参ります。

取材撮影：TCKnagoya